



永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
 令和2年5月発行 第157号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL:0952-31-6877

5月の生活目標

「生活のリズムを整えましょう」

♪決まった時間に食事をする

♪早起きを心がける

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

(平日の9:30~17:00まで)

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九大短大部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

「今、できることを♡」

自分の長い人生の中で、初めての体験に直面し、心身が悲鳴をあげそうな毎日です。

皆様はいかがお過ごしでしょうか？

進級・入園で新しい出会いでの生活が始まり、ようやく慣れてきたところで臨時休園となり2週間程経ちました。あと、10日程は現在の状況が続く見込みです。「スティホーム」を合言葉に、外出の自粛や「3密」厳守、お買い物制限等々、何十年と続けてきた生活のリズムが狂って、どうして過ごそうかと悩んでいるうちに夕方を迎えるような有様です！
 また、人・もの・ことが動かないと、あつという間に豊かだといわれていた生活が一変し、世界中で経済活動が麻痺してしまう現実を知りました。約100年前に起きたスペインかぜの教訓が時を経て、生かされなかったのかと少し悔しい思いをしています。

さて、保育現場の私達は、この社会の状況下において、休むことができない家庭のお子様へ感染防止のために神経質な程注意を払いながら、保育を提供させていただいています。来ている子どもたちは楽しそう過ごしてくれていますが、一方では自宅で待機しているお子様のことがとても気がかりです。子どもたちの心のケアに何かできることを・・・と、先生たちはYouTubeにダンスやクイズ等々アップしたり、電話を掛けて声を聴き様子を聞いたりしてコミュニケーションをとっています。

子育て支援に通って下さっている方々とも久しくお会いできていませんが、是非見てくださいね。

(三光保育園長)



「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。今回は、戸外で行う活動のみ計画通り実施いたします。

★日時 ①5月27日(水)10:00~12:00 ②5月28日(木)10:00~12:00

内容：じゃがいも掘りの体験 (対象：2歳以上)

場所：佐賀市金立公民館駐車場

持ってくるもの：帽子、手袋(軍手)、シャベル、おしぼり、お茶、おやつ、着替えなど

※掘ったじゃがいもは買い取れますので、小銭と袋を準備して下さい。

※事前のお申し込みが必要です。(いずれの日も先着10組の親子です。5月11日から申し込み開始です)

※親子ともに、マスクの着用をお願いします。

6月の「子育て支援事業」のお知らせ

今年度の支援の日程は、年齢別に分かれております。

6月3日(水)10:30~11:30 …赤ちゃんの日(兄弟児の参加はご遠慮ください。)

6月8日(月)10:30~11:30 …1歳の日

6月15日(月)10:30~11:30 …2歳の日

} (1歳の日と2歳の日、兄弟児の参加は可能です)

場所：さんこう幼稚園保育園の運動場

※電話でお申し込みください。先着10人です。

※雨天時は、中止です。

※詳しくは、ホームページを必ずご覧ください。

6月の「フリーデー」について

保育園の支援センターを下記の日程で開放します。

日時：6月22日(月)・23日(火)10:30~11:30



★新型コロナウイルス感染症の状況により、計画の変更が予想されるため、お出かけの前にも必ず、ホームページでチェックしてください。

寄稿:西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

「言葉に思いをのせて、言葉に心を込めて」

子ども学科 准教授 岩根 浩

小学校を卒業後、本学への入学を許可され4年目。今でも試行錯誤の毎日を過ごしているが、長く教職生活をしてきたからであろうか。この年になっても、子ども、いや学生に授業ができるという望外の喜びを感じている。

学校現場では国語教育を中心に仕事をしてきたので、今でも言葉に対する興味・関心が薄れないように努めてはいる。しかし、昔から「国語」が好きだったわけではない。最も嫌いな教科の一つであった。新任教師として子どもたちと出会った日の感動はあったものの、国語の授業をどうしていけばいいのか、苦手意識を払拭できないまま教壇に立ったことは今でも忘れることはできない。

新任として赴任した4月の始業式の翌日。「国語の授業の進め方が分かりません」と、図々しく物を言う私に対して、教頭先生が「いいですよ。私がやって見せますね」と優しく声をかけられた。私は教室の後ろで毎時間、先生の発問と板書、子どもたちの反応をひたすらノートに書き連ねていった。「教科書をどのように読ませていけばいいのか」「一人一人に課題を持たせるにはどのような手立てをとればいいのか」「子どもの発言やつぶやきをどのように取り上げていくのか」「話し合いをどのように進めていけばいいのか」など、指導技術の基礎・基本を子どもの姿を通して具に教えていただいた。目から鱗が落ちる、驚きと感動の毎日であった。「自分も早く教頭先生のような授業ができるようになりたい」との思いが日増しに強くなっていった。

これを契機に、子どもたちや同僚及び先輩方のおかげで、国語教育に携わる経験を数多く積ませてもらった。その過程で、国語が、人間としての知的及び文化的活動の中枢をなし、人間形成に資する力を育むものであり、「国語力は人間力である」という意味が少しずつ分かるようになってきたことは、私にとっての大きな財産である。これまでご指導いただいた先生方、そして子どもたちへの感謝の念で一杯である。

教職41年目の春は、コロナウイルスという人類がこれまで経験したことのない禍とともに始まった。全く先行きの見えない世の中ではあるが、必ず夜は明ける。朝がやって来ない日はない。来春、社会に巣立つゼミ生5名が、この先出会うであろう子どもたちとともに、力強く未来を切り拓いていってくれることを今から楽しみにしている。

さあ、今日も授業を通して、学生とともに自分も成長していこう。言葉に思いをのせて、言葉に心を込めて。

(令和2年4月20日)